

関連項目：教育活動プラン②、③、⑥

カードの活用により具体的な発言スキルを向上させる

目的

生徒指導の大きな役割は、児童のやる気を引き出すこと、共感的人間関係を築く力を身につけさせることと考えます。本校では、学校の本来の使命である授業と、その授業での学びを生かす場において、やる気やかかわり、自己肯定感につなげる具体的な発言スキルを身につけさせたいと考えました。

内容

1 分かる授業・認め合う授業づくり

● 勉強名人カードの提示

「安心して自分を表現できる」「人とつながる喜びを味わう」ために、授業中の具体的な発言話型を「勉強名人カード」として児童一人一人に持たせました。そして、学級の達成目標と個人の達成目標を明確にし、年4回の自己評価で自分を振り返らせました。

このカードには、「話し方」の中身として「自分の考えを話す」と「友達の違いにつなぐ」の二種に分け、具体的な発言の例を載せています。また、他に、「聞き方」「書き方」の具体的な目標も示しました。

● 助言名人カードの作成

勉強名人カードを実際の授業で活用させるためには、児童の発言を引き出す教師の助言が大切です。そのために、教師側の手持ちのカードとして、「助言名人カード」を作成しました。そのカードには、「聞き方」「話し方」「書き方」以外にも大切にしたい助言として、児童の自己肯定感、自己存在感、人権感覚を向上させるための助言も示し、意図的に取り入れてきました。例えば、以下のような助言です。

「間違えることは恥ずかしくないよ。みんながしっかり考えるチャンスだよ。」「分からないときは『分かりません』と言おうね。」「今、困っていることはないかな。」「『待ってください』『もう少し時間をください』と言っていいんだよ。」「すごい。いいところに気がついたね。」 等

2 やる気を出す言葉カード、認め合う言葉カードの掲示

● 授業での学びを生かす。

道徳や人権授業などで学んだ人間関係づくりやポジティブな生き方に生かせる「こつ」（具体的な言動）を教室内に掲示し、生活や遊びなどの具体的な場面とつないでいくことで、実践力を育ててきました。

● ソーシャルスキルトレーニングでの学びを生かす。

主に低学年で、より良い人間関係づくりに必要な具体的な言葉を掲示し、帰りの会等で振り返りの場を持たせてきました。

● 自分を見つめ、生き方を考える。

市販されている「語りかけ」の言葉が入った掲示物や日めくりカレンダーなどを児童玄関に展示しました。これは、自分を励ましたり戒めたりする言葉、感性に響く言葉に出会うことで、よりよい生き方につないでいけるものと考えました。



道徳授業の板書を生かした教室掲示



「元気言葉」の掲示とシール評価

成果

こうした取組をすることで、授業中に使える話型の数がどの児童も増えました。また、間違えたり失敗したりしても大丈夫と答える児童の割合も14ポイント高くなりました。授業へのやる気アンケートでは、課題解決学習や体験型学習だけでなく、「友達との学び合い」や「教師の言葉かけ、支援」などのポイントも高いという結果が出ています。また、授業以外の場においても、「どんな時にやる気が出るか」という問いには、「友達からの認めや励ましの言葉かけ」が高いポイントになっています。